

第1学年 国語科 学習構想案

日 時 令和7年10月16日（木）第3校時
場 所 人吉市立中原小学校 1年2組教室
指導者 教諭 西川 菜摘

1 単元構想

単元名		おもいうかべながらよう 「くじらぐも」（光村図書「こくご 一」㊦ P 6～P 1 8）	
単元の目標		(1) [知識及び技能] ・かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(1)ウ ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて、音読することができる。(1)ク (2) [思考力、判断力、表現力等] ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。C(1)エ (3) [学びに向かう力、人間性等] ・積極的に想像力を広げて読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。	
単元の評価基準	知識・技能		主体的に学習に取り組む態度
	① かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ ② 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて、音読している。(1)ク	① 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ	① 積極的に想像力を広げて読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。
単元終了時の子供の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、物語を楽しんで読もうとする子供。			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
くじらぐも「音読マスター」になろう。 ～くじらぐもを思い浮かべながら、分かったことや感じたことがつたわるように読もう～		語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけながら音読し、場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像することを通して、言葉への自覚を高めること。	
指導計画と評価計画（8時間取扱い 本時 6／8）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価基準」
一	3	○ 題名から「くじらぐも」はどんな話なのかを想像する。単元のゴールを設定する。 ○ 挿絵を手がかりに、想像を広げながら、あらすじを捉え、「くじらぐも」を読んで、「いいな。」「すきだな。」と思うところをもつ。 ○ 「いいな。」「すきだな。」と思うところを伝え合い、これからの活動を見通す。	【態①】（発言・観察） ○進んで物語に興味をもち、想像を広げながら楽しんで読もうとしている。 【態①】（発言・観察、ノート） ○場面の様子や登場人物の行動について、好きなどころを見つけ、伝えようとしている。 ★【知①】（発言・観察、ノート） ○かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。
二	4	○ くじらぐもに出会う子どもたちとくじらぐもの様子を想像して、音読する。 ○ くじらぐもに乗るまでの子どもたちとくじらぐもの様子を想像して、音読する。 ○ <u>くじらぐもに乗って空の旅をする様子を想像し、想像したことを生かして音読する。【本時】</u> ○ くじらぐもと別れる子どもたちとくじらぐもの様子を想像して、音読する。	★【知②】（発言・ワークシート・観察） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて、音読している。 【思①】（発言・ワークシート・観察） ★【思①】（発言・ワークシート・観察） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 【思①】（発言・ワークシート・観察）
三	1	○ 音読発表会をして、感想をまとめる。	★【態①】（観察・発言） ○これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。

2 単元における系統及び子供の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)				
学校学習指導要領第1学年及び第2学年 [知識及び技能] (1) (ウ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。 (1) (ク) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) (エ) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。				
教材・題材の価値				
子供は、これまでの物語の学習で動作化したり、声に出したりして物語を楽しむことを経験している。本教材では、言葉の叙述を基に、場面の様子や登場人物の行動を捉え、動作化や音読を通してその世界を豊かに想像し、想像を膨らませながら物語を楽しむことのできる1年生に適した内容である。				
本単元における系統				
【第1学年】 「はなのみち」 お話を声に出して読む。	【第1学年】 「おおきな かぶ」 役割読みや動作化をして、お話を楽しむ。	【第1学年】 「やくそく」 人物の言ったこと、したことを確かめながら読む。	【第1学年】 「くじらぐも」 挿絵も手掛かりにして、人物の言動を思い浮かべながら読む。	【第1学年】 「たぬきの糸車」 お話のまとまりを捉え、好きなところとそのわけを考える。
				【第1学年】 「ずうっと、ずっと、 大すきだよ」 感想を交流することで、お話をより楽しむ。
子供の実態（単元の目標につながる学びの実態）				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況 「おおきなかぶ」 単元テストより (児童数19人、単位：％)				
「読むこと」に係る内容				学級正答率
登場人物の行動を読み取っている。				89.4
登場人物の言動を読み取っている。				63.1
場面の様子を読み取っている。				94.7
■本単元の研究の視点に関する意識の状況 (児童・生徒数19人、単位：％)				
「学び」に係る調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
「なぜ」「どうして」という「問い」をもちながら学習しているか。	73.7	21	5.3	0
自分の考えを主体的に友だちや先生に伝えているか。	63.2	26.3	10.5	0
課題を解決するために、友だちと話し合っているか。	84.2	10.5	5.3	0
友だちの意見をもとに自分の考えを見直しているか。	63.2	21	15.8	0
■考察 (資質・能力に関して) ほとんどの子供が、物語を読んで「だれが」「何をしたのか」を理解することができる。しかし、かぎ(「」)が会話文であることは理解しているものの、誰が何と言ったのかを正確に答えることには課題がある。登場人物の行動や言ったことを読み取る力を付けていく必要がある。 (学びに関して) 多くの児童が「問い」をもち、学習に臨んでいる。一方で、授業において自分の考えをペアで伝え合うことはできているが、全体で自分の考えを伝えることに苦手意識をもつ児童もいる。児童同士が自分の考えを伝え合い、お互いの考えを認め合いながら主体的に学習に参加する授業を行っていく必要がある。また、子供が自分の考えや説明を友達の意見を基によりよいものしていくことができるように、根拠を示しながら説明したり、友達の意見を取り入れた考えを発表したりする姿を価値づけていく必要がある。				

3 指導に当たっての留意点

視点1 主体的な学びを支え、学びの本質へとつながる子供の問いを生み出す導入の工夫

- 単元の初めに、実際に雲を見て想像をふくらます活動を行う。そのうえで、教材を提示し、教材への興味・関心を高め、単元のゴールを共有する。
- 本時では、教科書の挿絵と、吹き出しの入った挿絵を提示することで、子供が何か言っているだろうと興味をもたせる。くじらぐもに乗っている子供たちはなんて言っているのだろうという問いを引き出す。

視点2 子供を深い学び・確かな学びへと導くゆさぶり発問や活動の設定

- 本時では、挿絵だけでなく、叙述からも想像を広げられるように叙述から想像した吹き出しを提示する。その際「どの言葉から、こう思ったのかな。」と発問することで、言葉に着目させて考える活動の場を設定する。

4 本時の学習

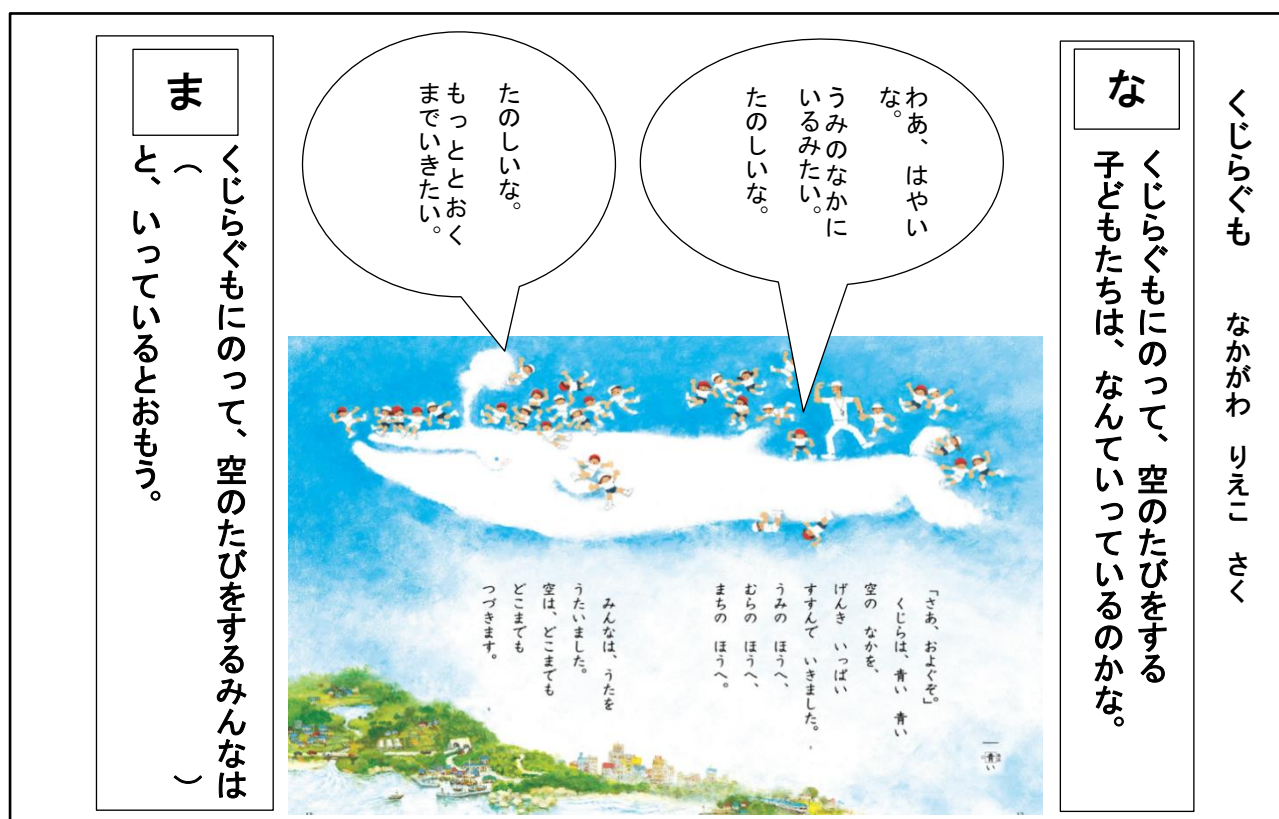
(1) 目標 くじらぐもに乗って空を旅する絵や文から、くじらぐもに乗った子供たちの言っていることを具体的に想像することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◆発問、◇予想される子供の発言)	○指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	7分	<p>1 課題をつかむ。</p> <p>◆前の時間にはどんなことをしたかな。</p> <p>◇くじらぐもに乗ったよ。</p> <p>◆今日の場면을、音読して確かめてみよう。</p> <p>◆(吹き出しがある挿絵を見せる)</p> <p>◇吹き出しがある。</p> <p>◇楽しいって言ってるんじゃないかな。</p> <p>◇なんて言っているのかな。</p>	<p>○前時までのワークシートや動画を見て、場面を想起させる。</p> <p>【視点1について】</p> <p>○前時と本時との場面の違いから、本時における教科書の挿絵と、吹き出しの入った挿絵を提示することで、何て言っているのかという問いを引き出す。</p>
展開	33分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>(1) 言っていることを考え、吹き出しに書く。</p> <p>◇大きなビルが見えるね。</p> <p>◇海にいるかがいそうだから「いるかだ。」って言っている。</p> <p>(2) ペアで考えを伝え、全体で共有する。</p> <p>◆子供たちはどんなことを言っているのかな。</p> <p>◇○○を見て、「電車だ」って考えました。</p> <p>◇○○を見て、「船が見える」って考えました。</p> <p>(3) 校長先生からの挑戦状について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>わたしは()という教科書の言葉から、「空はこんなに広いんだね。」って考えたよ。どの言葉から想像したのか考えてみてね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ゆさぶり発問や活動</p> <p>どの言葉から、こう思ったのかな。</p> <p>◇「空」ってかいてあるところだと思う。</p> <p>◇くじらが元気に泳いだら、遠くまで行けそうだから「空の中をげんきいっぱい進みました。」だと思う。</p> <p>◇「どこまでも どこまでも」って2回言っているから、とても広そうだね。</p> <p>◆言葉からも言っていることを想像できるね。みんなも言葉からなんて言っているか考えてみよう。</p> </div> <p>3 まとめをする。</p> <p>◆空のたびをする子供たちはなんて言っていると思う？</p> <p>◇たのしいって言っていると思います。</p>	<p>○吹き出しの入ったワークシートを使い、どんなことを言っているか考えて書く。その際、かぎ(「」)を使って書き、言っている言葉であることを意識させる。</p> <p>【視点2について】</p> <p>○校長先生が言っていることを想像できた根拠となる表現を探す場を設定する。その際、「どこまでも どこまでも」の叙述を押さえることで、本文の言葉への自覚を促したい。</p> <p>○言葉に着目して、くじらぐもに乗っている子供達がなんて言っているのかを考えることで、叙述からも想像できることを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【具体の評価規準】思①</p> <p>○場面の様子に着目して、子供たちの言っていることを具体的に想像することができる。</p> <p>(方法：観察、シート、発言)</p> </div> <p>○言葉を探せない子には個別に支援する。</p> <p>○子供たちの考えた吹き出しの言葉から、まとめをする。</p>
		<p>【まとめ】くじらぐもにのって、空にたびをする子どもたちは(たのしい)と言っているとおもう。</p> <p>◆子供たちは「楽しい」「わくわく」しているんだね。その気持ちをこめて、音読しよう。</p> <p>◇わくわくが伝わるように読めた。</p> <p>◇くじらぐもの様子が見えた。</p>	<p>○子供が、場面の様子から具体的に想像できたことを実感できるように、学習したことをもとに音読する活動を行う。</p>
終末	5分	<p>4 振り返りをする。</p> <p>◇子供たちが言っている言葉がわかりました。</p> <p>◇くじらぐもや乗っている子供たちが見えたよ。</p> <p>◇文からでも考えられて、楽しかった。</p>	<p>○学びを実感したり、今後の学ぶ意欲を高めたりできるように、振り返りを行う。</p> <p>○単元のゴールに近づけたか、ふり返る。</p>

【前提：授業の終末に、つぶやいてほしい子供の言葉】

- ・空の旅をする子供たちの気持ちがわかった。子供たちがなんて言っているのかわかった。
- ・くじらぐもに乗っている子供たち(みんな)の様子を想像できた。
- ・文からも言っていることを考えられて楽しかった。
- ・一緒に空の旅をしているみたいだった。



【I C T活用計画】

- ・ 電子黒板に場面を提示し、理由を話す際の根拠を示せるようにする。
- ・ 前時の動画や、校長先生からの挑戦状を提示する。